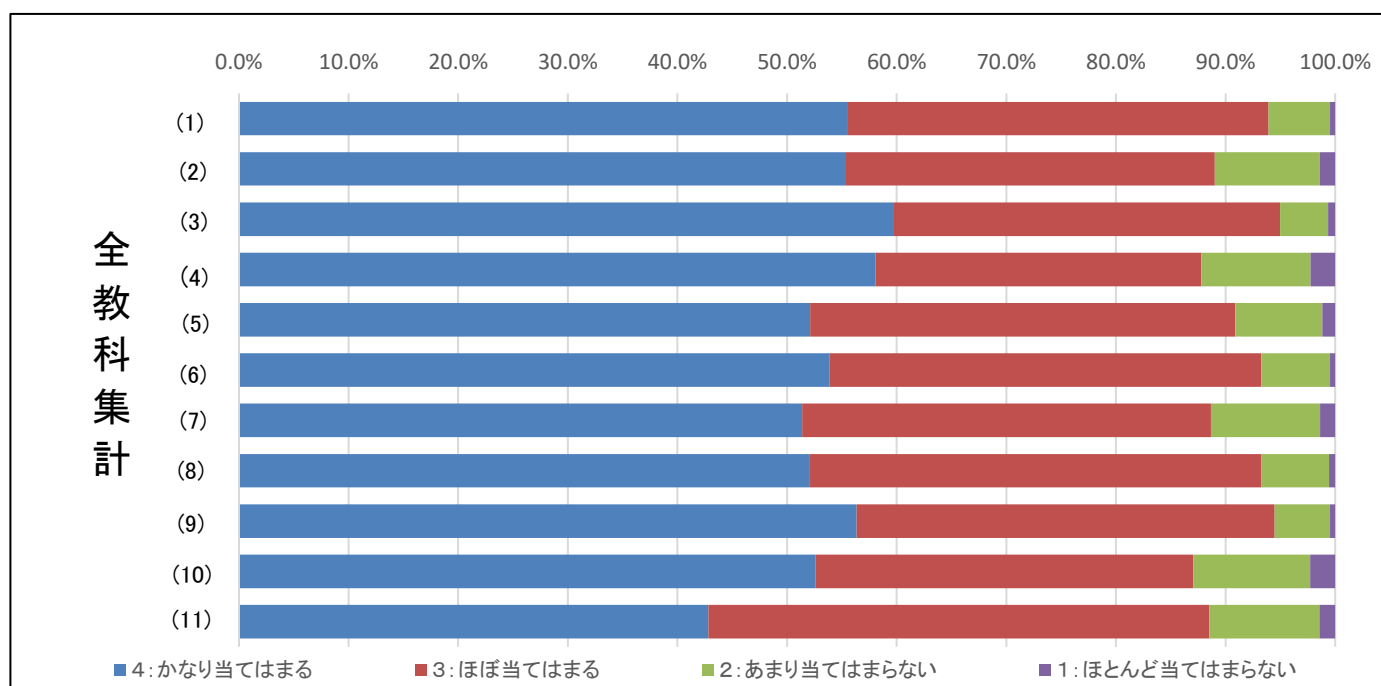
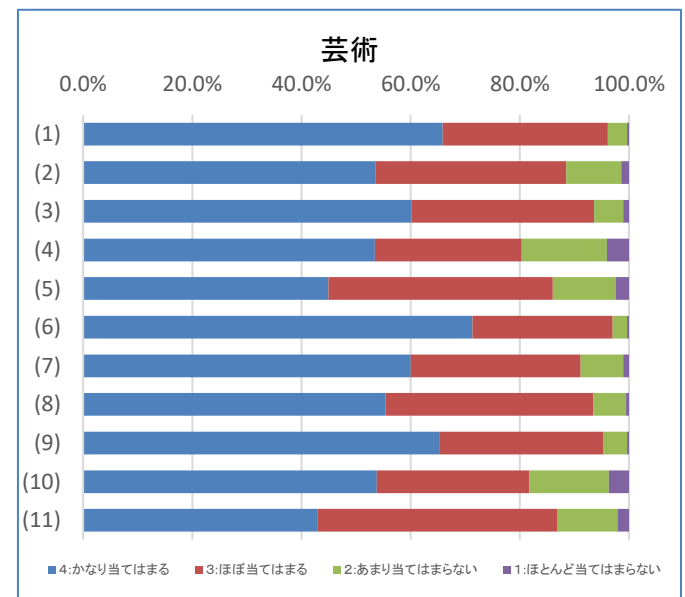
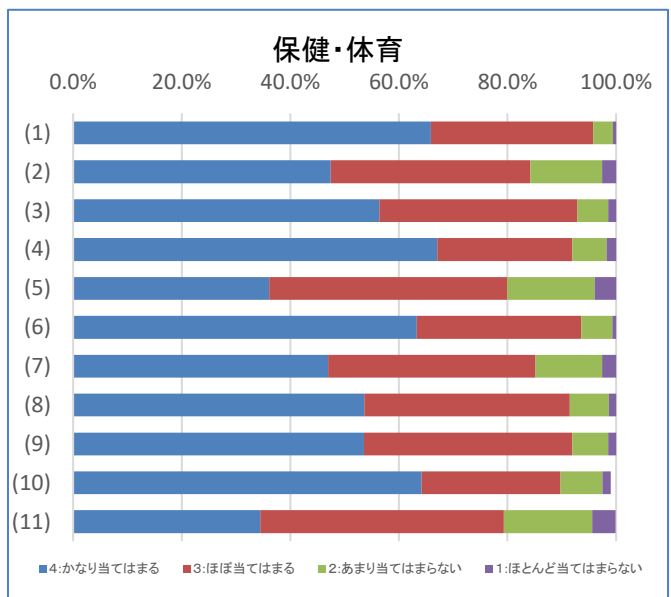
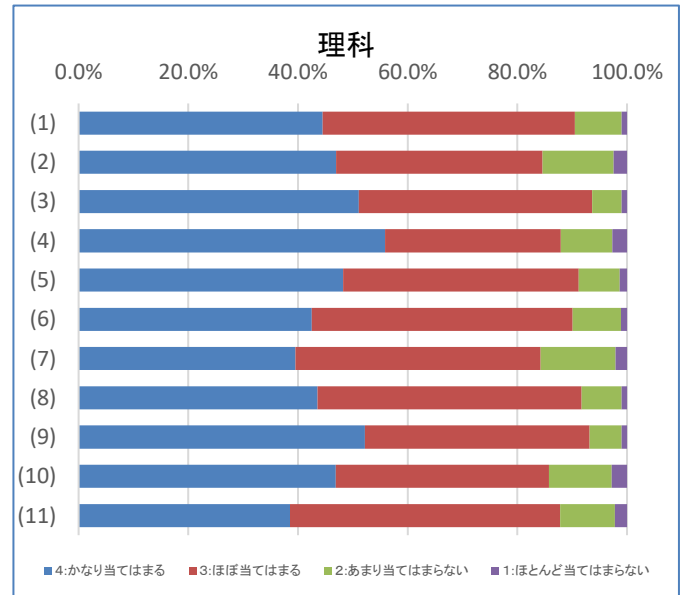
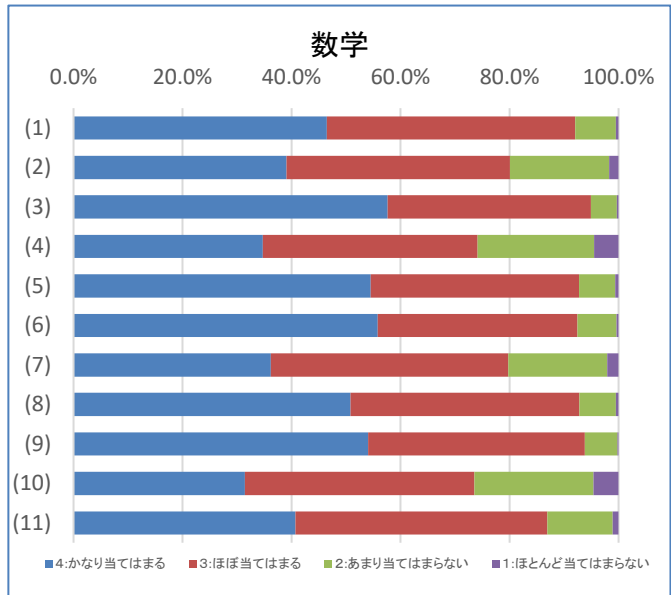
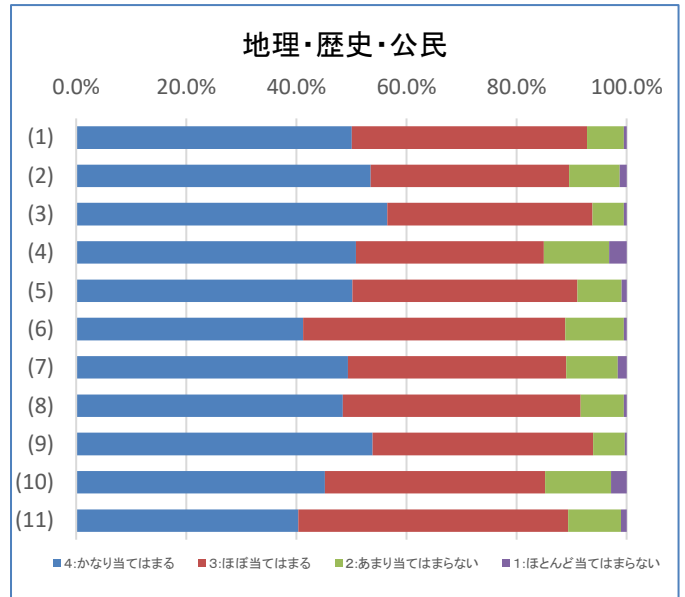
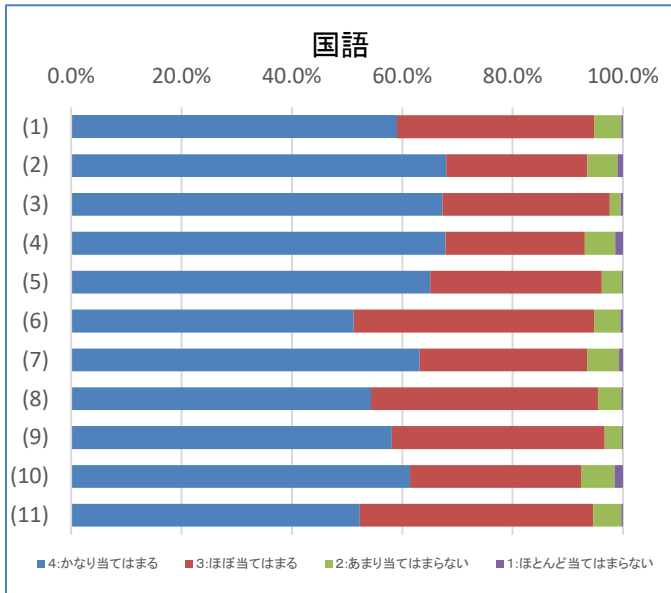


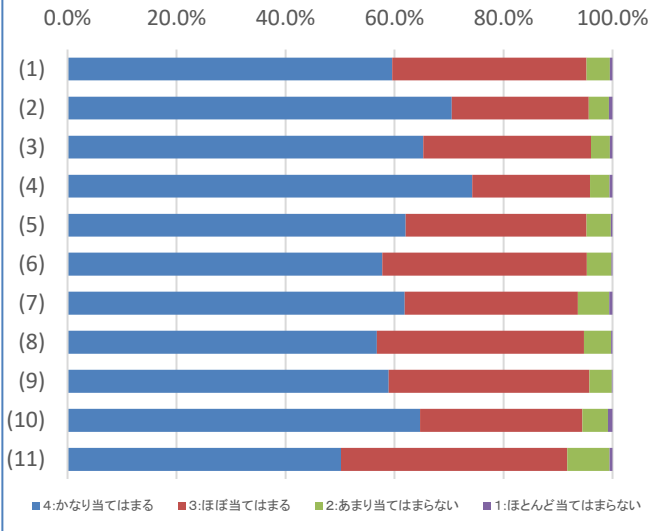
令和3年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和3年11月26～12月17日実施)

大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	協働的に課題を解決する場面がある。
	(5)	論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	協働的に課題解決に取り組むことができた。
	(11)	論理的に思考し、表現することができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。	

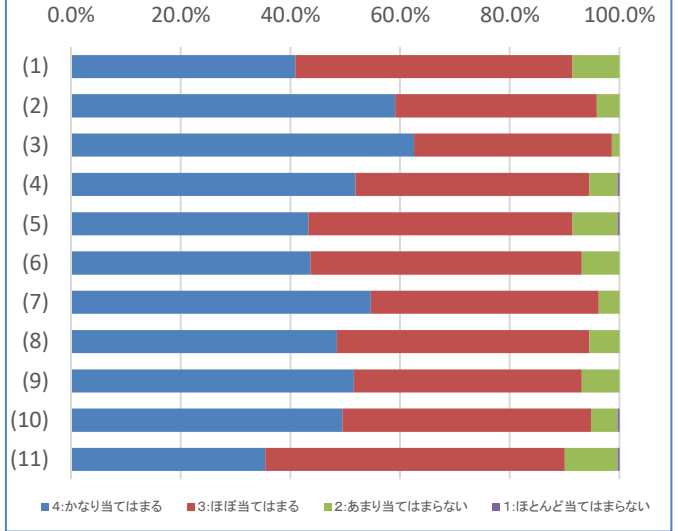




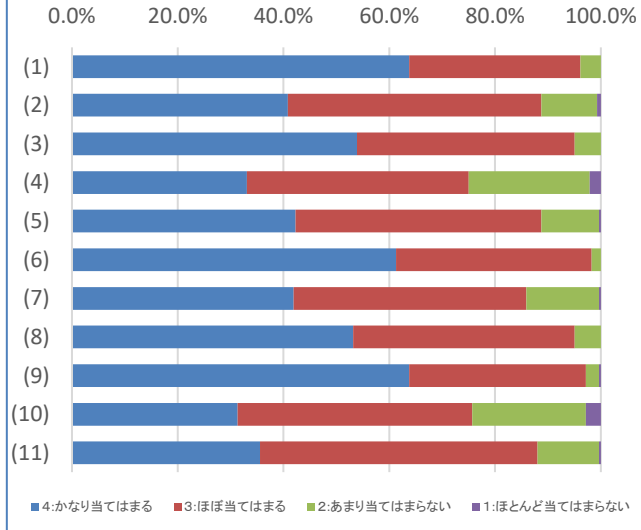
外国語・国際



家庭・看護



情報



令和3年度 第2回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科	授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」項目の「かなり当てはまる」の数値が、国語科の項目内では最も低くなっていることから、生徒に成長を実感させるということに課題がある。 「論理的に思考し、表現することができた」項目の「かなり当てはまる」の該当数が、他の国語科の項目と比べ相対的に低くなっていることから、生徒に「論理的に思考」することを実感させることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にさらに成長を実感させる授業にするために、単元目標を生徒に意識させたり、振り返りの時間をより十分に確保したりする活動について見直し、継続する。 生徒に論理的に思考することを実感させるために、「論理的に思考する」ことの定義を再度各教員が確認し、授業のゴールに到達した生徒の具体的な様子を意識した授業づくりを行っていく。 	
地理 歴史 公民	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高いが、知識の定着が実感できているかという点においては、そうではないと感じている生徒がいるので、生徒が主体性を実感しながら知識の定着を目指した方策・手段を用いる必要がある。 振り返りシートなどで生徒に授業の振り返りを実施している科目では、「主体的に取り組む」という点において効果が読み取れる結果になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科内で研究協議などを行い、教育的効果の向上が期待できる手段や取組みを担当者・講座ごとではなく、教科全体で共有する。ICT機器を活用し、カラー写真や映像などを生徒に視聴させ、視覚的な側面から知識の定着を目指す。 プレゼンテーションや振り返りシートなどを活用し、生徒に思考を促し目的意識をもって授業に参加する工夫を行い、思考力育成の側面から知識の定着を目指す。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学ぶことをそれまでに学んだことと関連付けて考えることが苦手な傾向にある 協働的な学びを実感できている生徒が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道や根拠のある知識ではなく、暗記的な学習をしている生徒が多いことが原因と考えるため、誘導的な教材・発問から思考の補助をする、教科横断的な話題から関連性を意識させる等を行う。 他教科の取組みを参考にし、数学でも協働的に問題解決をする機会を積極的に取り入れる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> コロナ下で、感染対策に配慮しつつ、方法を工夫して実験を行うことができ、生徒の理解の助けとなった。 簡単な計算(比例計算、溶液の濃度計算)や、単位の変換(1kgは何gか等)ができない・わからない生徒が年々増えており、課題に感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、感染対策をしながら実験を行い、実験ができないときの代替方法(演示や動画)について、教科内で共有化して、学習効果を落とさないようにしていきたい。 中学時代に身につけておいて欲しい知識について教科内で整理する。既存の知識との接続を丁寧に行う。理科について入学前宿題を課したほうがいいのか検討する。 	
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 体育 感染症対策を行いながら授業を行っている中で、満足度は概ね高い。「他者の考えを知り、自分の考えを深める」「論理的に思考し表現する」をより満足のいくものにしたい。 保健 感染症対策を行いながら授業を行っている中で、関心度もさらに深まり満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き感染症対策を行いながら授業を行う。生徒が「他者の考えを知り、自分の考えを深める」「論理的に思考し表現する」ことができる機会を増やすために、これからは教科で情報共有や意見交換をしたり、ICT等を活用しながら授業を行う。 引き続き感染症対策を行いながら授業を行う。これからもより見やすく理解しやすいプリントやスライドを作成したり、効果的にグループワークやペアワークを取り入れられるように教科で情報共有や意見交換をして、より授業の理解度や単元に対する関心を高める工夫をしていく。 	
芸術	音楽 演劇	<ul style="list-style-type: none"> 他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める内容がより充実すると良い。 論理的に思考して表現する意識を持ちにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の意見交換や、グループ活動などの取組みを増やしたい。 論理的思考を働かせることに自覚的になるよう、声掛けを工夫する。
	美術 工芸	<ul style="list-style-type: none"> (4)と(5)の項目の数値が他の項目に比べて低めである。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目ですでに工夫し、取り組んでいるが、美術、工芸、書道における協働的で論理的と思える場面設定はどういうものか、今後の課題として意見交換をしながら改善を目指す。
外国語 国際	<ul style="list-style-type: none"> 英語表現の科目で(4)と(10)の設問の数値が他の項目に比べてやや低い傾向があり、協働的に課題を解決する活動に改善の必要がある。 授業評価は概ね良好だが、(5)と(11)の設問の「論理的に思考すること」に課題が残る科目があった。 (1)の設問の数値がほかの項目に比べて低い科目があり、学習のねらいを示したり、学習したことを振り返る機会を十分に確保できていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで検討しながら文法演習をしたり、英作文課題を相互に点検するなどの活動を増やし、改善する。 論理的な思考ができるように、多角的な視点をもったり、これまでの授業を通じて得た知識を関連付けたりするよう活動を取り入れる。 授業の初めに、どのような意図や目標で、各活動(ペアワーク、ディスカッション、スピーキング、ライティングなど)に取り組むのかを生徒に明確に示す。 	
家庭 看護	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な取組みと多角的視点を引き出せるよう改善したい。 家庭基礎では「調理実習をやりたい」との声が複数あげられていた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での体験的授業について教科会等で話し合う。調理以外の実習は、概ね縮小しながらできているが、より充実したものになるよう工夫を重ねたい。 現状、県より各調理台2名までとの制限があり厳しい。今後は2展開の検討や、短時間でできるもの、他校の実習実施方法などを確認する。 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> すべての項目において、4・3を選択している生徒が75%以上であった。 特に質問(1)(3)(6)(8)(9)では95%以上の生徒が4・3を選択している。 他者の考えを知る機会や協働的な活動の部分においてコロナと機器の兼ね合いを課題に感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての項目が80%以上になるように、教科会などを行い、授業内容を充実させていく。 (2)(4)(5)(7)(10)(11)についても1・2を選択する生徒が減るように、教科内外を問わず意見交換を行う。 換気消毒に注意し距離を一定に保ちながら行える、ペアワークやグループワークを取り入れられるように教材研究を継続的にやっていく。 	
舞台 芸術	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 実技の授業では、論理的思考の意識を持ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の授業も含めて常に授業公開をし、意見交換等を行う。 論理的・批判的思考を働かせて意見交換に取り組むよう、声掛けを工夫する。 	